

## PRESS RELEASE

報道関係者各位

2023年6月20日  
株式会社イースリー

### 【調査レポート】

## スポーツの特性やコーチの関わりが

## 子どもの「自己肯定感」に与える影響とは？

20年に渡りサッカーの育成普及事業に携わり、「スポーツ価値創造 Company」として、スポーツを通じた社会課題解決を目指す株式会社イースリー（所在地：東京都千代田区、代表取締役：小野寺 徹也）は、スポーツの特性やコーチの関わりが子どもの自己肯定感に与える影響について調査しました。

### ■自己肯定感が低い日本の子どもたち

『子ども・若者白書』（平成26年版／内閣府）によると、日本の若者（13歳～29歳）は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、韓国といった諸外国に比べ、自己肯定感が低いというデータがあります。自分自身に満足していると答えた人の割合は、アメリカ（86.0%）、イギリス（83.1%）、フランス（82.7%）、ドイツ（80.9%）、スウェーデン（74.4%）、韓国（71.5%）に対し、日本はわずか45.8%にとどまりました。

そこで、スポーツの特性やコーチの関わりが子どもに与える影響について調査しました。

### ■クラブやコーチの関わりが子どもの自己肯定感に与える影響

国立教育政策研究所が全国の小学生を対象に行った「令和4年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【全国版／小学校】」における設問に対し、東京都大田区で活動するサッカークラブ「大森FC」の選手85名に回答してもらい比較したところ、全国調査に比べ、自己肯定感に関する設問の数値が高い結果が出ました。

#### Q：自分には、よいところがあると思いますか

	全国調査	大森FC	差分
当てはまる	39.5%	67.1%	27.6%
どちらかといえば、当てはまる	39.8%	32.9%	-6.9%
どちらかといえば、当てはまらない	13.4%	0.0%	-13.4%
当てはまらない	7.2%	0.0%	-7.2%

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのは、全国調査 79.3%に対し、大森FCは100%

**Q: 将来の夢や目標は持っていますか**

	全国調査	大森FC	差分
当てはまる	60.4%	77.6%	17.2%
どちらかといえば、当てはまる	19.4%	17.6%	-1.8%
どちらかといえば、当てはまらない	10.3%	4.7%	-5.6%
当てはまらない	9.9%	0.0%	-9.9%

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのは、**全国調査 79.8%に対し、大森 FC は 95.2%**

**Q: 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか**

	全国調査	大森FC	差分
当てはまる	27.6%	36.5%	8.9%
どちらかといえば、当てはまる	44.9%	54.1%	9.2%
どちらかといえば、当てはまらない	22.4%	8.2%	-14.2%
当てはまらない	5.1%	1.2%	-3.9%

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したのは、**全国調査 72.5%に対し、大森 FC は 90.6%**

※参考: 令和4年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【全国版／小学校】

<https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/factsheet/primary.html>

[https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22qn\\_02.pdf](https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22qn_02.pdf)

**■ 自己肯定感を高めるスポーツの特性とコーチの関わりとは？**

大森 FC 小島直人代表のインタビュー:



「大森 FC は、以前からたくさんの子が練習参加に来てくれるクラブです。そのため、新しい子が来たときに「名前、なんて言うの？」といったように、話しかけることが伝統になっています。みんな、その経験を経てクラブに入っているの、自然とそうなっていくんですね。コーチがそうしろと言っているわけではなく、みんなが仲間として受け入れる空間があります。それが自己肯定感の高さにつながる場所はあるのかもしれませんが。

練習参加した子が「練習後の鬼ごっこが楽しかった」と言ってくれていましたが、それも自然に発生するもので、サッカーのときもあればバスケットをすることもあります。練習が終わった後に、みんなで楽しく遊ぶのは、友達になれる時間なので、コーチは口を出さずに見守っています。

大森 FC はサッカークラブですが、売り物にしているのは、生きがいや成長です。それは全スタッフと共有していて、子どもたちはサッカーが好きで上手になりたいと思っています。サッカーはミスのスポーツなので、失敗するのは当たり前。大事なのは、その失敗を受け入れて、どう成長していくかです。そのプロセスがサッカーには詰まっています、コーチたちもチャレンジを奨励するような接し方をしています。その繰り返しで、自己肯定感につながっていくのではないのでしょうか。

大事なことはチームが強くなることよりも、大森 FC に関わるみんなが成長することであり、サッカーが生きがいになること。そのためには、選手もスタッフも保護者も、みんなでチームとしてやらないといけません。コーチ同士も結構な量で話をしていますし、クラブの価値観を共有することで、子どもたちの中にちよつとずつ伝播していったらと思っています。」

※詳細は以下のレポート記事をご覧ください。

<https://www.sakaiku.jp/column/thought/2023/016247.html>

<https://www.sakaiku.jp/column/thought/2023/016257.html>

本件に関する詳細は、以下問い合わせ先までご連絡ください。また、株式会社イースリーが取り組む「スポーツ ESG 事業・スポーツの価値を創造し社会課題解決する事業」の詳細については下記のリンク先をご覧ください。

●ESG 経営「Social」に特化した社会課題を解決する「スポーツ ESG 事業」を開始

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000057491.html>

---

## 【株式会社イースリー概要】

所在地:東京都千代田区九段南 2-4-11 HIVE TOKYO 703

設立日:2003 年 8 月 8 日 代表:代表取締役 CEO 小野寺 徹也 URL:<https://www.e-3.jp/>

## 【本件に関するお問い合わせ先】

担当:株式会社イースリー メディア事業部:竹原 和雄

Email: [info@e-3.jp](mailto:info@e-3.jp)

TEL: 03-5210-1221



※新型コロナウイルス感染防止のためテレワークとなります。お問い合わせは、メールにてご連絡ください。